

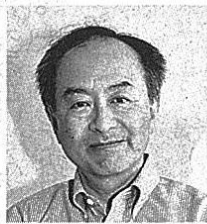
川村学園女子大学（我孫子市）

教師辞めた卒業生ゼロ

「感謝の心」を建学の精神に東京・目白に創設した川村女学院が前身。1988年、我孫子キャンパスに拠点を移した。文化系総合大学で愛称は「カワジョ」。目白キャンパスの一部学科を除き、3学部と大学院の女子学生が学生生活を送る。うち、1学年十数人と少人数教育が特徴の教育学部児童教育学科は教員就職率が昨年度100%と高い実績を誇る。重視するのは現場体験ときめ細かな指導。教員免許取得に必要な教育実習（小学校で4週間）以外に、2年生の授業「教育インターンシップ」では、地元小学校での年10回の学習支援や市内公民館と開催する「寺子屋コホミン」などの学習ボランティアを課す。児童に学ぶ楽しさを伝え、自身も教師としての基礎を習得するのが狙い。松本佳奈さん（2年）、佐藤楓さん（同）は「教えて子供が分かるとうれしい」を輝かせる。

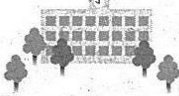
3年になると1年間、県の研修として県内小中学校で週1回、授業や学校行事などを学ぶ。その実践経験を大学にフィードバックし、ゼミ形式の授業で意見交換し、次の研修に生かす。4月から小学校で研修する大部仁湖さん（3年）、橋本聖菜さん（同）は「子供目線が大切。友人と話をし疑問解消や知識を習得し研修に生かせる」と口をそろえる。このほか、実際に教師となり悩みを抱える卒業生の相談に乗る「Gオフィス」も月1回開催し、ケアも欠かさない。向野光教授は「実践で具体的な教え方がイメージしやすくなり、学生同士の情報共有も大きい。手厚いケアで教師を辞めた卒業生が1人もいないのが自慢です」と話す。

向野光教授



向野光教授

学校自慢



◇川村学園女子大学
開学1988年、学生数1091人、所在地我孫子市下ケ戸1-1-3



学生が講師となって小学生に勉強を教える寺子屋コホミンの様子1川村学園女子大学提供

【橋本利昭】